平成30年度大阪府がん対策推進委員会

小児・AYA世代のがん対策部会（概要）

１．日　時：平成3１年２月２１日（木）１８時～

２．場　所：國民會館住友生命ビル　１２階　小ホール

３．議　事：

（１）第３期大阪府がん対策推進計画におけるアクションプラン及びPDCA進捗管理に

ついて

（２）小児がん患者家族支援について

（３）その他

４．委員からの意見要旨と審議結果

（１）第３期大阪府がん対策推進計画におけるアクションプラン及びPDCA進捗管理に

ついて【資料１～４・参考資料１～３】

　　　【意見要旨】

　　　 〇がん登録を用いてAYA世代の疾患別診療施設を調査し、AYA世代への支援の

仕方を考えていくのがよいのではないか。

〇小児がん患者のニーズ調査の実施を通じて、現状の問題点が浮き上がってきたが、これらの結果を施設に戻して改善を図り、経年的にこの調査の数字の変化を測定して行くのが望ましいのではないか。

　　　 〇小児がん患者への生殖機能温存に関する情報提供については調査したが、AYA世代への生殖機能温存に関する情報提供の状況調査をしてはどうか。

　　　 〇がん患者（特にAYA世代）への生殖機能温存療法助成制度を検討してはどうか。

　　　 〇在宅緩和ケアマップ・リストの作成する際に、がん登録データを活用し、医療機

　　　　 関を通して患者が利用した在宅医療機関等の調査や遺族調査を行うことはでき

ないか。また、作成の際には小児ということで在宅医療機関への要求を高く設定

することはせず、どのような医療を提供できるか確認することで、小児・AYA世

代に対応可能な在宅医療機関をリスト化するのはどうか。

　　　 〇AYA世代への就学・就労を含めた支援についてはがん診療拠点病院の相談員へ

の研修会等を実施して各施設で対応してもらう必要がある。

　　　 ○情報提供する際には、情報を必要とする患者に伝わるように周知して欲しい。

　　　 〇小児・AYA世代のがんをテーマに市民公開講座を行い、社会全体でがん患者を

支えていく機運づくりをして欲しい。

　　　 〇がん教育では、がんの予防ばかりに重点を置くのではなく、がんとの共生・サバ

　　　　 イバーシップについても伝えていくべき。

〇長期フォローアップが必要であるにも関わらず受診しなくなる患者もおり、まず

は長期フォローアップの実態を把握し、今後の対応を考えていくべき。

【審議結果】

　　　 ○資料３のとおりアクションプランを策定することで承認。

（２）小児がん患者家族支援について【資料５，６・参考資料４】

　　　【意見要旨】

　　　 〇情報提供、がん相談支援センターの周知等を行う際には、患者家族に広く周知さ

れる具体的な方法を考えるべき。

○小児がん患者家族は主治医、看護師等の医療スタッフより、患者家族が持つ不安

に対する情報提供を受けていることが多く、がん相談支援センターを利用せずと

も不安を解消できている可能性がある。

　　　 〇小児がん患者家族に助成制度等の情報提供が漏れることがないよう、各施設で情報提供を行う医療スタッフの役割分担をしっかりと行うべきである。

　　　 〇「きょうだい支援」「家族支援」についてはがん患者のみならず、小児科全般にかかることであるので支援を実施して欲しい。

　　　 〇小児がん患者家族調査の結果を協力医療機関にフィードバックし、その結果を基

　　　　 に各施設で医療の質を向上して欲しい。また小児がん患者家族調査を継続して行

うべきである。

　　　 〇職員が利用する院内保育を家族患者への利用拡大とあるが、職員でさえ利用でき

　　　　 ない実態があることから、施設によっては実現可能性がないのではないか。